

南が丘中学校・南が丘小学校・南田中小学校

< 研究主題 >

ふれ合い、学びの連続性における児童・生徒の育成 ～小中9年間を見通した教育活動を通して～

小学校から中学校にかけての9年間は、児童・生徒が精神的・身体的に大きく成長をする大切な時期である。しかし、「中1ギャップ」と言われるように、小学校から中学校に進学する際に環境の変化に適応できない児童・生徒も出てきているのも現状である。このような問題を解決するために、同じ地域の南が丘中学校、南が丘小学校、南田中小学校が連携し、9年間を見通した連続性のある教育活動を行い、円滑な接続を図ることとした。

今年度の活動

3部会に分かれた研究会

児童・生徒交流部会、生活指導部会、学習指導部会の3つの部会に分かれ、小中間で中一ギャップ解消に向けての研究を行った。

児童・生徒交流部会

異年齢同士が、お互いを尊重し合い関わりあえる児童・生徒の育成を目的とした、児童・生徒交流活動の推進、運営を行う。

生活指導部会

生活指導・情報共有、特別支援、養護の3つに分かれ、生活上の連携、個々の児童・生徒の情報共有を行い、各校の指導に役立てる。

学習指導部会

学習面での中一ギャップを解消するため、特定の教科（今年度は外国語・英語）の専門性を生かしながら、課題改善カリキュラムを作成する。

前年度までの教科部会を廃止し、3部会を設置した。それぞれの分科会で、「中一ギャップ」解消の手立てを考えることを重点として、協議を行った。交流活動の充実化や生活指導での留意点を共有することができたなど、多くの成果を残すことができた。



交流活動

児童・生徒の豊かな心を育てるため、3校での交流活動を大切にしたい。

あいさつ運動



部活動体験



職場体験



中学校説明会



合唱コンクールリハーサル



リトルティーチャー



シューズバンクプロジェクト



中学校授業体験



本年度の成果

- 交流活動において、昨年度に引き続いて質的な向上を目指した。その結果、小学生が中学生に自分から質問したり、中学生が小学生に丁寧に教えたりなど、児童・生徒が活動に意欲に取り組む姿が見られた。
- 分科会での協議を通じて、「中一ギャップ」解消の手立てを考えることができた。生活態度として、あいさつ・言葉遣いなどには向上の兆しが見られている。